



日本工営株式会社 仙台支店  
小野寺善弘

## －震災復興事業従事期間中の不思議な体験－

### 1. はじめに

この寄稿を執筆するにあたり、提示されたテーマから大きく外れないように、前半で岩手県大槌町での震災復興事業の紹介と、後半でその期間中のプライベートな時間に経験したドキッとした話を紹介します。なお、右上写真の島は大槌町のシンボル「蓬莱島」で、ひょっこりひょうたん島のモデルになったとも言われています。ひょっこりひょうたん島と紹介されても50代以前の方は知らないですよ。

### 2. 私が経験した震災復興整備事業

#### (1) 岩手県大槌町の被災状況

平成23年3月11日(2011/3/11)に発生した東日本大震災により、大槌町の死者行方不明者は1,200人を超えた。

表.1 大槌町の被災状況

人的被災状況	物的被災状況
死亡者： 818名	産業・公共施設被害： 約800億円
行方不明者： 416名	家屋全壊・半壊： 4,167棟
震災関連死： 52名	一部損壊： 208棟
合計： 1,286名	浸水面積： 431ha
(町人口の約8%)	(宅地浸水：52%、商業地浸水：98%)

本来ならば被災前後の写真を入れたいところですが、残念ながら自分で撮った写真はなく、著作権の不安もあるので写真は割愛します。気になる方はネットで検索してみてください。

震災復興事業を進めるにあたり、大槌町ではCM方式というものを導入しており、なぜCM方式を導入したか、その背景を次ページに紹介します。

## (2) CM方式導入の背景

表.2 復興事業へCM方式導入の背景

多岐に亘る事業分野が混在し、(震災復興土地区画整理事業、津波復興拠点整備事業、防災集団移転促進事業、漁業集落防災機能強化事業、道路事業、公共下水道事業、災害復旧事業[上水道]、効果促進事業)一工事の中で事業分野が跨り、管理者調整及び財源や清算が複雑化した。		
復興事業の多くは他自治体からの派遣職員が担う体制。 <ul style="list-style-type: none"><li>● 震災からの時間の経過とともに自治体派遣職員の確保が厳しくなる傾向</li><li>● 派遣期間は長期でも1年程度</li></ul>	地域の特徴(急峻な地形等)もあり、工事発注までに多くの時間が必要。また住民の合意形成を図っての計画確定には一定の期間が必要。	復興事業は、小規模自治体では経験したことのない事業規模。膨大な発注業務を短期間で実施するためには、多くのマンパワーが必要
複数年度にわたる事業継続性が課題	工事発注時期が遅延する可能性が極めて高い	自治体職員のみでの対応は大きな問題



## (3) 業務概要

発注者： 岩手県大槌町

業務名： 大槌町復興整備事業管理支援業務

以下「管理CMR」と記載。

※正式件名は対象6地区の名称を含むが、本稿では割愛した。

目的： 対象プロジェクトの効率的で確実な進捗を図るため、発注者が行う調整及び管理等の業務を支援、補完する。

期間： H25.8.16(2013.8.16)～R1.9.30(2020.9.30) 6年1ヶ月

私は2014.9.1～2018.3.30の3年7か月在籍

契約人工： 弊社含み5社JVで、22,769人・日

主な経験： 私が担当した主な業務は、事業・プロジェクト間調整、関係機関調整、復興交付金申請補助、下水道設計管理

次ページに、事業体制と管理CMRの位置づけを記載します。

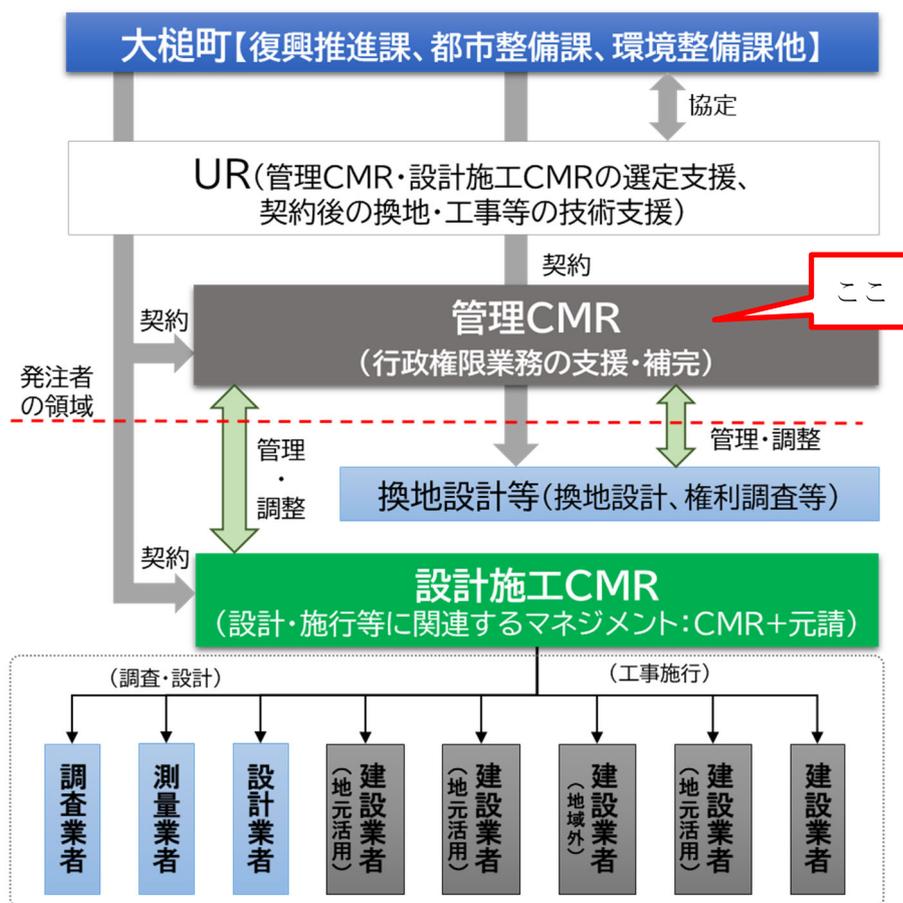


図.3 事業実施体制

発注者側の立場で復興事業に携わる事ができ、大変貴重な経験となりました。但し、こういった経験を生かす必要のない、平和で災害のない生活を祈るばかりです。

### 3. 不思議な体験

#### (1) 経緯

さて、ここから不思議な体験をした話となります。現場の仮設事務所と仮設宿舎は、未利用地となる津波被災跡地に建設され、通勤時間は徒歩5分、運動不足になります。

宿舎には朝晩の食事のお世話をしてくれるシェフが居てくれたおかげで、周辺に商店もない中で、食事に困ることはありませんでした。

但し、メニューの多くは肉体労働者寄りのカロリーとボリュームで、体育会系の高校生なら歓喜するのが目に浮かびます。とは言え、50過ぎのおじさん達にはオーバースペックで、先行赴任している諸先輩方は明らかに体重増。

そんな訳で、体重管理の一環として、周りが活動していない早朝にランニング（スピードが遅いので正確にはジョギング）を始めることにしました。

毎朝走り続けていると、徐々に距離を延ばすことができ、10 km/朝を日課とするようになる頃から不思議な体験へと繋がります。

リアス式海岸線で距離を伸ばそうとすると、集落から集落へ繋がる尾根を越える必要があり、民家の全くない林道のような道を、日の出の遅い時期にはヘッドライトの明かりを頼りに走ることになります。

## (2) お婆さん？

街灯のない中で、ライトの明かりに反応するのは道路標識やデリネーター、たまに鹿や狸等の目が赤く反応します。カーブの先で明かりの境界に見えたのは、しゃがんで海の方を見ているお婆さんの姿！ 多分心拍数は過去最高値を記録したと思います。

民家までは数km、暗い中お婆さんが歩いてきたとは思えなく、全身鳥肌状態で、逃げるようにペースを上げつつ、しっかりとライトの明かりを向けると誰もいない・・・

ほぼ毎日同じ場所で、同じ状況でしたが、ある時からパツタリ姿を見かけることがなくなりました。未だにリアルな人間だったとは思っていません。

## (3) 無い

夜明け前の濃霧の日、ライトを照らすと拡散して見にくくなりますが、相手から見えるようにライトを付けて走っていました。

道路脇の斜面に白い影が並んでおり、一瞬ドキッとしたものの、この時に思ったのは「山百合が咲きだしたかな」でした。

翌朝同じ場所を走っていると、山百合なんか咲いていなく、ライトに照らされるのは山の斜面のみ。あの白い影は何だったのでしょうか。周辺に民家やお墓が無いのに、線香の匂いや何かの気配を感じる日もあります。

## (4) 鉢合わせ

尾根筋のガードレールの切れ目を狙って、獣道が道路横断しています（路肩に鹿の足跡あり）。ライトに照らされ、親子の鹿が目の前を横断していきました。この時の親鹿は雌のようで、角がありませんので恐怖は感じません。というか、動物と分かると非常に安心します。

## (5) 夜釣り

生活圏はがれきばかりで、東京へ単身赴任していた時のように、ちょっと飲んで帰ることもできません。一方で、都会で仕事していた頃より、自由に使える夜の時間が増えました。

宿舎の目の前が海で、窓を開けると波の音も聞こえる近さです。Amazonで釣り道具一式揃えて、ウキウキしながら夜釣りに行ってみました。海辺まで街灯が無いのでいつものヘッドライトは必須です。

波の音を聞きながら、心地良い釣りをイメージしていましたが、常に複数の人に見ら

れているような気配で、鳥肌が納まりません。早々に撤収して、部屋に帰りましたが寒気が止まりません。この後釣り道具は二度と使うことはありませんでした。

#### (6) 内側からカギ

がれきの中の宿舎とは別に、近隣都市に単身赴任用の部屋を借りていました。週末は都会の生活で息抜きをします。

週末の部屋に帰ったら、トイレに内側からカギがかかっています。前述の夜釣りの翌週だったので、誰か連れて帰ってしまったかなど。この時は酔いつぶれて忘れることにしました。

#### 4. おわりに

後半はとりとめの無い話が続きましたが、まじめな話しばかりでは退屈してしまうのでいかがでしたでしょうか。因みに今は生活様式がすっかり変わってしまい、ランニングは全くしていません。

大槌町の職員の方々、支援に来ていただいた日本全国の自治体職員の方々、設計・施工に携わったの方々、その他関係者の皆様、大変ご苦労様でした。今回復興事業に関わりを持って、貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございます。

今後も全国上下水道コンサルタント協会の一員として、恥ずかしくないよう社会に貢献していきたいと思えます。

以上